

国内外規格・認証制度研究会 の活動

2010年4月16日

特定非営利活動法人 **事業継続推進機構(BCAO)**
国内外規格・認証制度研究会

研究会メンバー

担当理事:黄野吉博

座長:石川芳朗

副座長:江崎浩輔・高橋哲朗

メンバー:大月弘行・三島和子・増田幸宏・折笠秀明・黄野吉博

・荒野てつ也・太田究三郎・小野高宏・石井洋之・大石育三

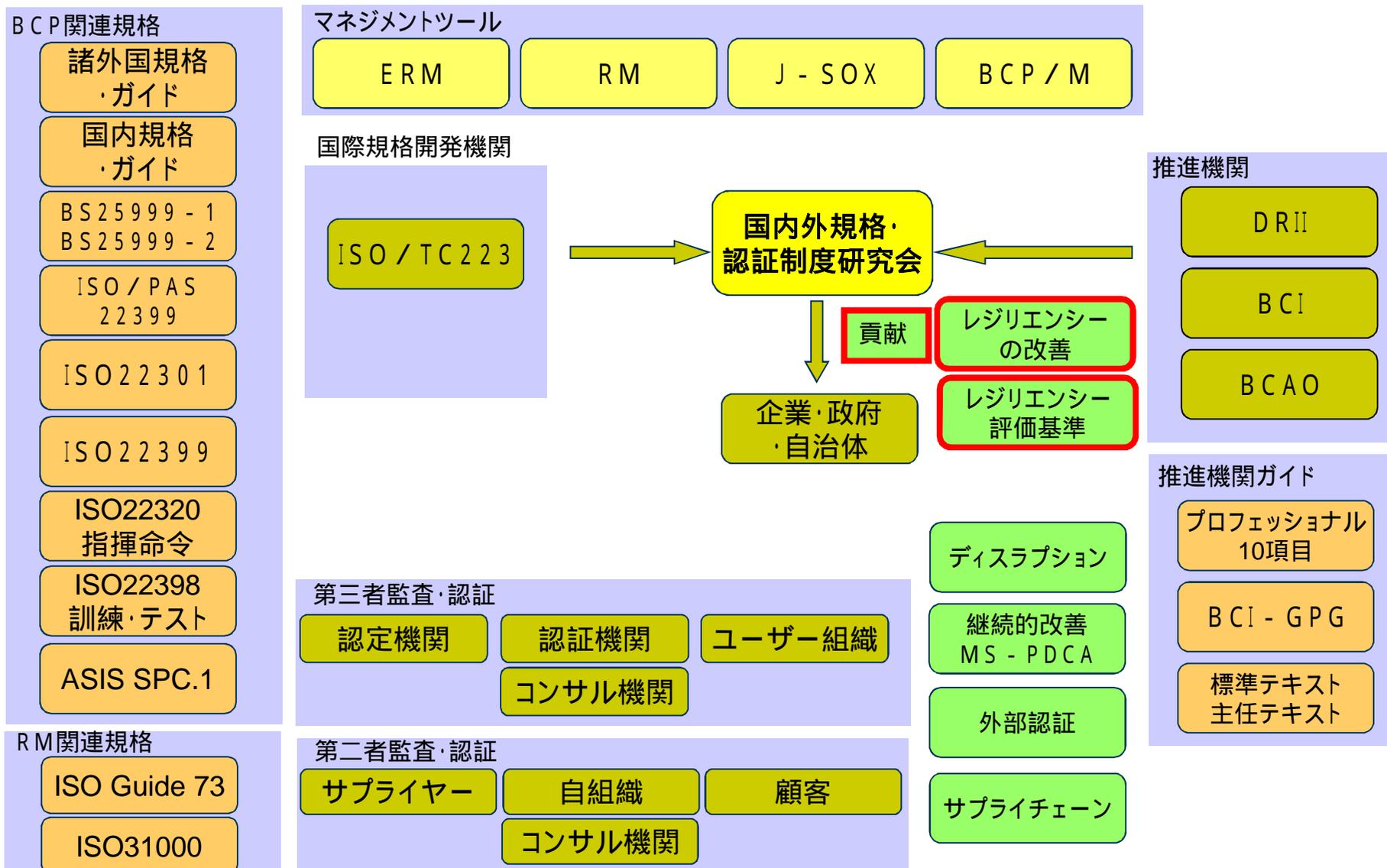
・加藤洋子・菅沼 勲・杉澤 豊・高橋明彦・永木良明

・深川志津・前田良二・松本新一・森 徳行・正保文彦

・朝倉 智・井口洋輔・大須賀 健

(26名、2010年03月11日現在、順不同、敬称略)

国内外の規格、認証制度関連の鳥瞰イメージ図



当研究会の目的・目標

研究会の目的:

ディスラプションの調査・研究、サプライチェーンの調査・研究などを通し、利用組織にとって、レジリエンシーが向上し、役に立つ事業継続規格・ガイドラインのあり方を提案する。

2009年度の目標:

- (1) 代表的な規格・ガイドの内容趣旨を徹底的に、より深く理解し、規格・ガイドに関する専門性を高める
- (2) B C A O内外組織と情報交流により、規格・ガイドに関する専門性を高める
- (3) 規格・ガイドとディスラプション及びサプライチェーンの関係を調査・研究し、レジリエンシー向上に効果的な要素を抽出する

研究会開催実績

2008年度は7回開催：

- ・BCP事例の情報共有、内外規格の情報共有を実施、研究テーマのディスカス中心

2009年度は7回開催：

- ・ISO/PAS 22399を中心に研究、レジリエンシーとの関連性を検討

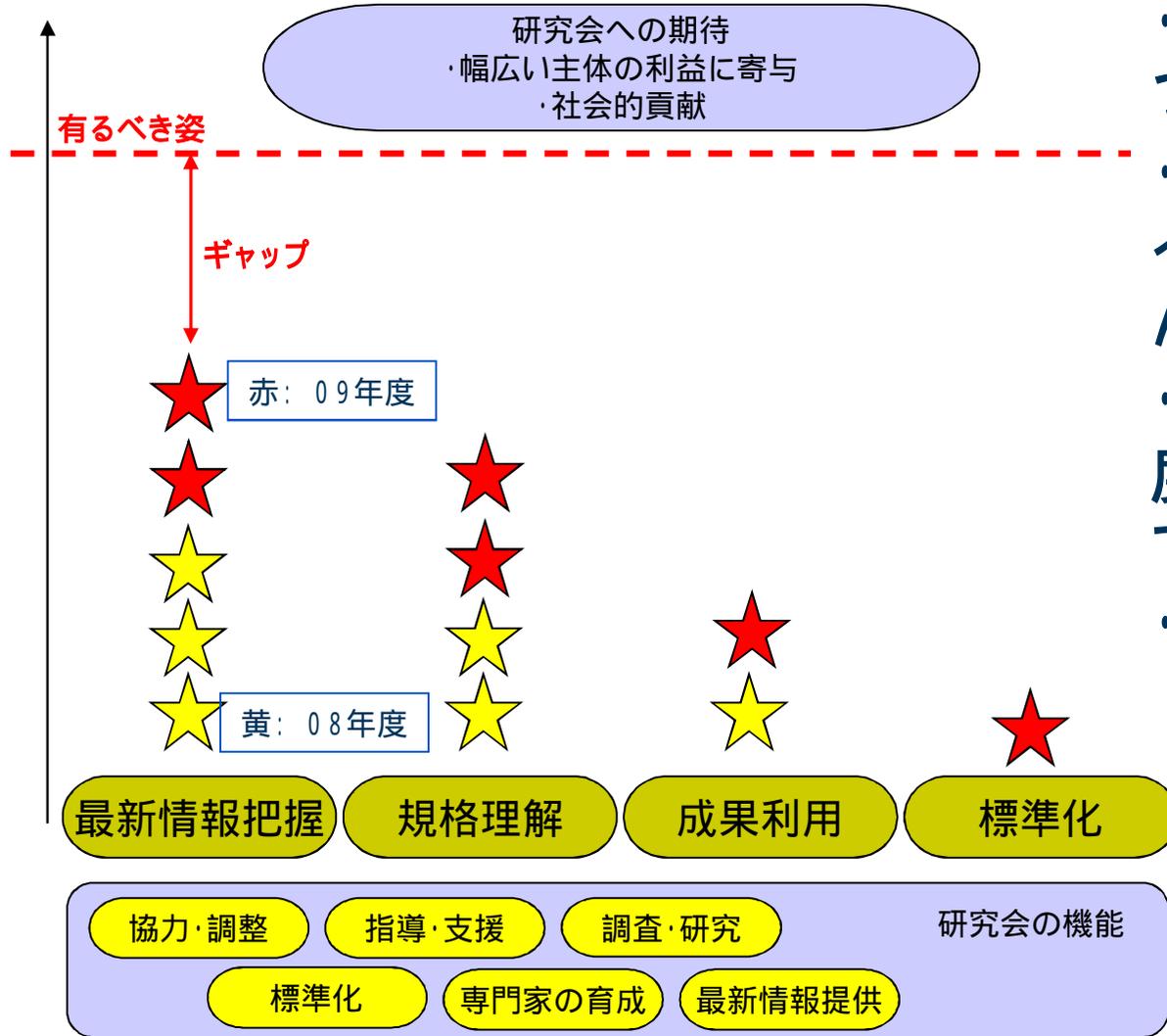
レビューと今後の方向

有るべき姿:

- ・BCP関連規格の最新情報を把握し、規格の内容を十分に理解し、必要な組織に情報提供及び指導・支援に利用している
- ・ディスラプションやサプライチェーンの調査・研究により事業継続のレジリエンシーが向上し、成果が必要な組織で使われている

レビューと今後の方向

現状の進捗イメージ



現状の姿：

- ・開発中のISO公開情報が多少発信されている
- ・他(社)組織情報も少しずつ共有が出来てきた
- ・公開されている規格やガイドラインの情報共有が進んでいる
- ・メンバーの規格・認証制度に関する知識が向上している
- ・公開規格の理解が進んだ

レビューと今後の方向

今後の方向性：

- ・レジリエンシーの調査研究
- ・規格改善提案
- ・組織のレジリエンシー向上

◆規格のレジリエンシー項目の抽出例

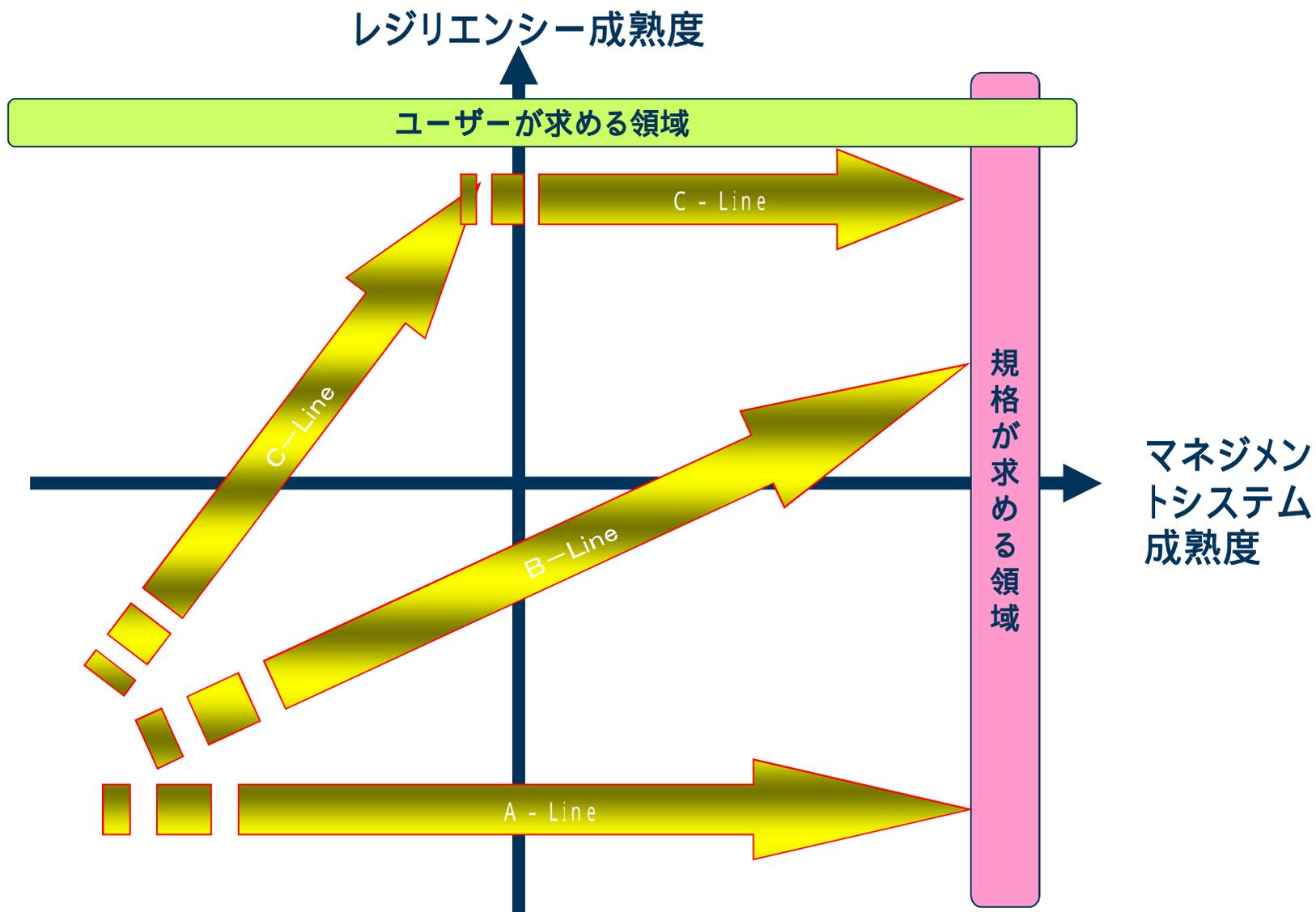
- ・規格フレームワークの実行力

マネジメントシステム成熟度

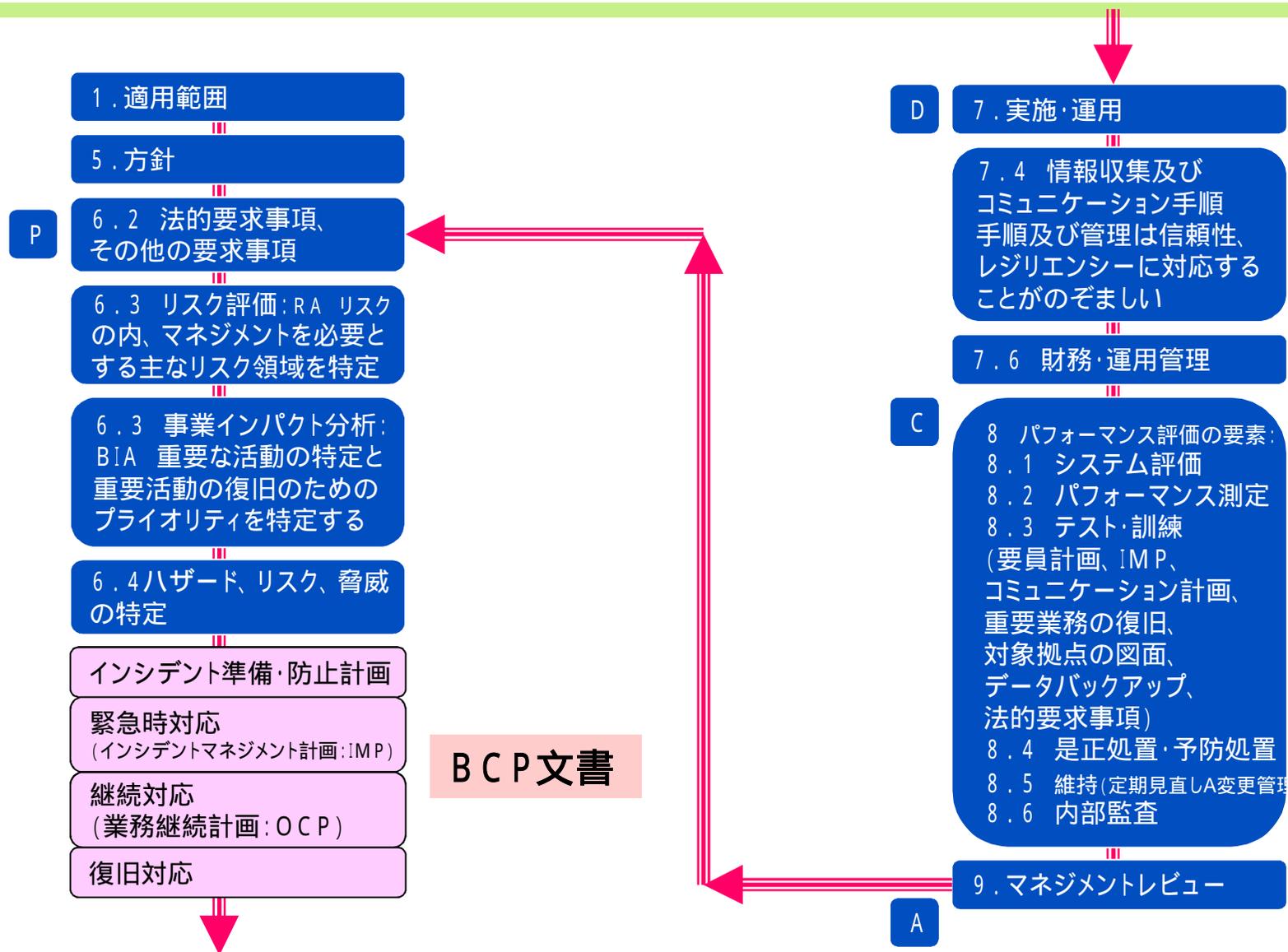
- ・内容の深さ(身に付き度、日常の活用度、多様性、対応力、復旧力)

レジリエンシー成熟度

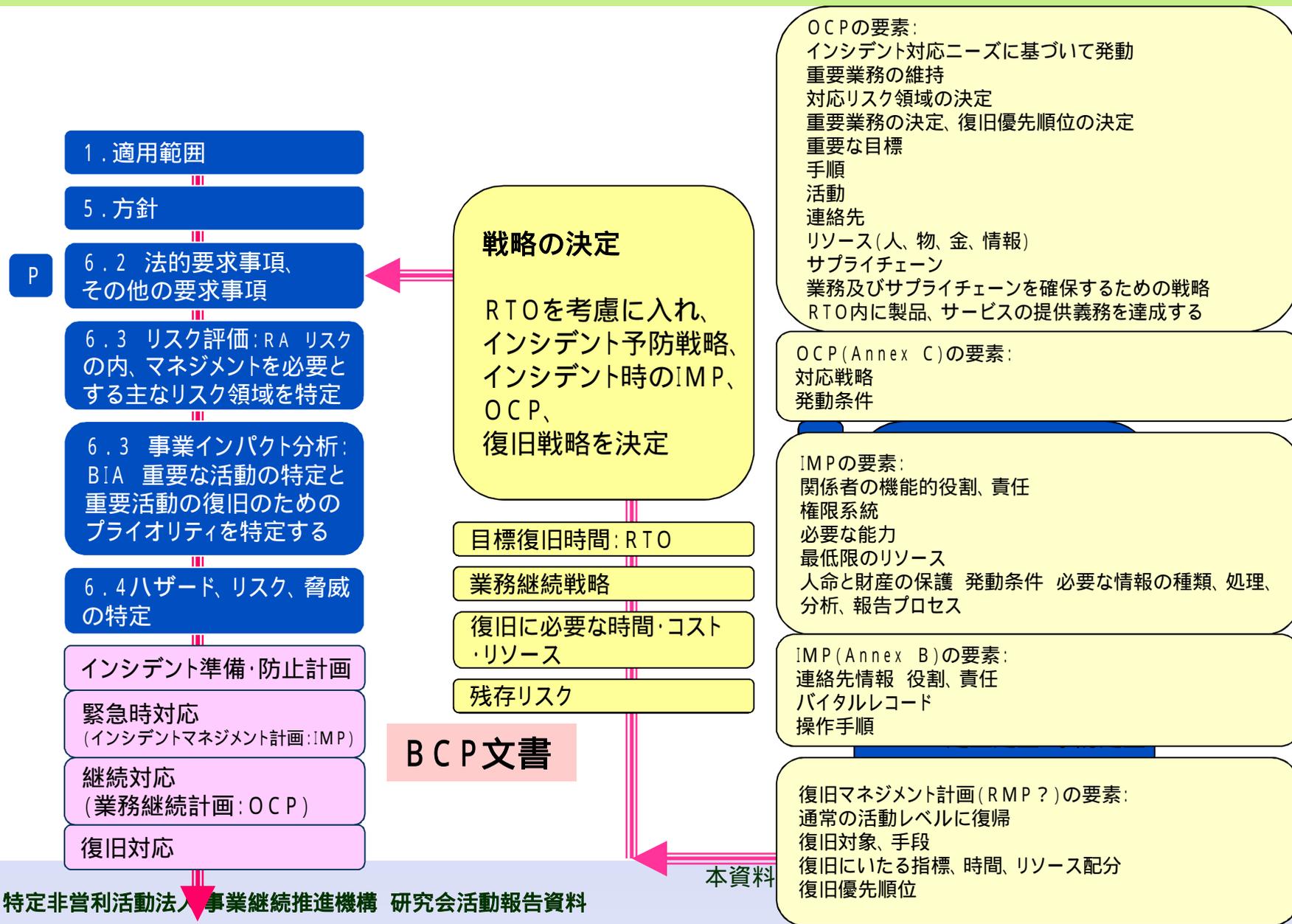
成熟度変化のイメージ（例）



ISO/PAS 22399のフレームイメージ



ISO/PAS 22399 戦略の決定



ません。

◆規格のレジリエンシー項目の抽出例

評価スケール

マネジメントシステム成熟度

1. 要求事項が定義されていない
2. 要求事項が定義されているが実施していない
3. 要求事項が定義され、実施している
4. 実施され、評価して、見直ししている
5. 見直しされ、継続的な改善が認められる

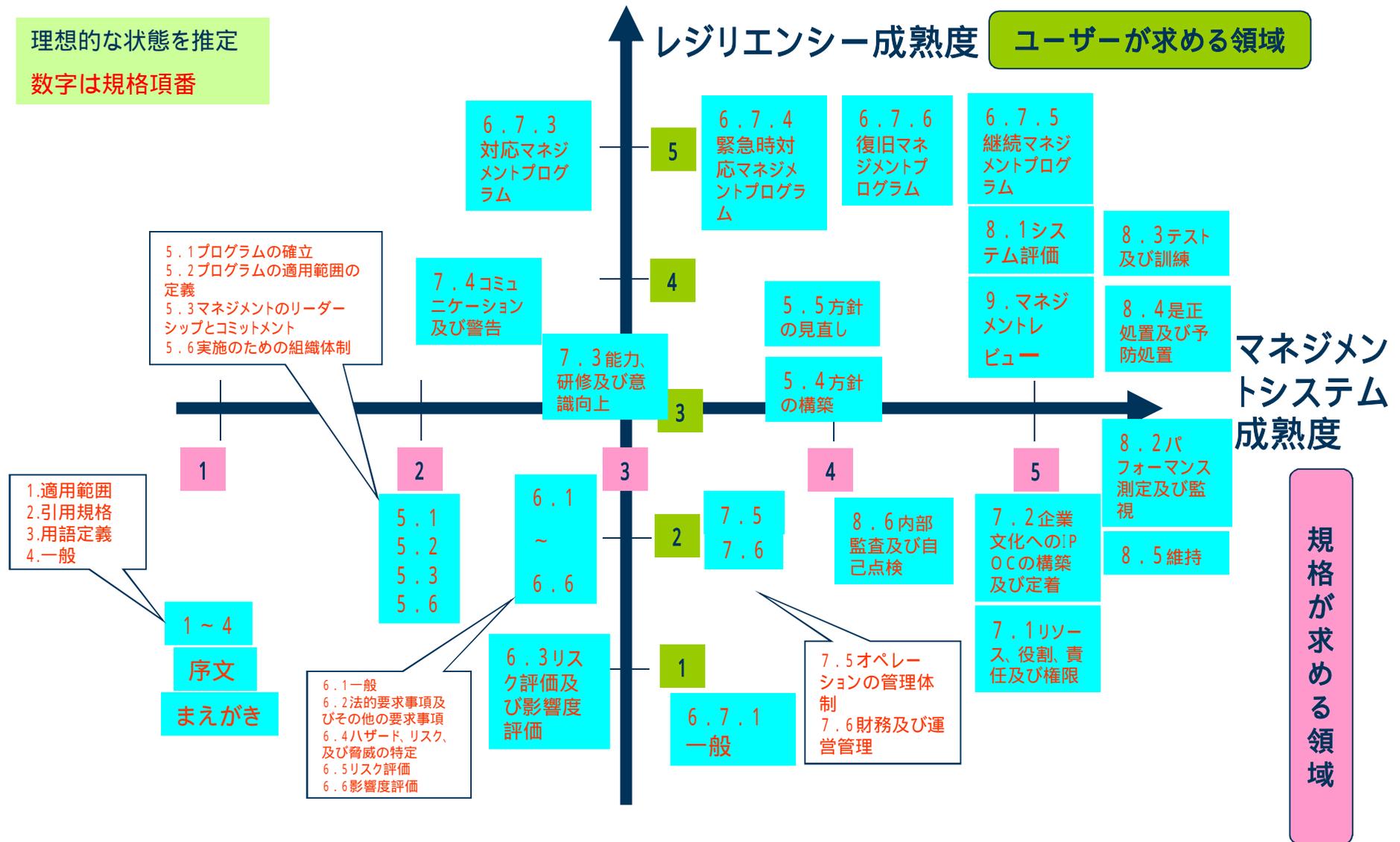
レジリエンシー成熟度

1. 成熟度とは関連しない
2. 成熟度と関係する
3. 成熟度向上がある程度見込める
4. 成熟度向上が見込める
5. 成熟度向上が大幅に見込める

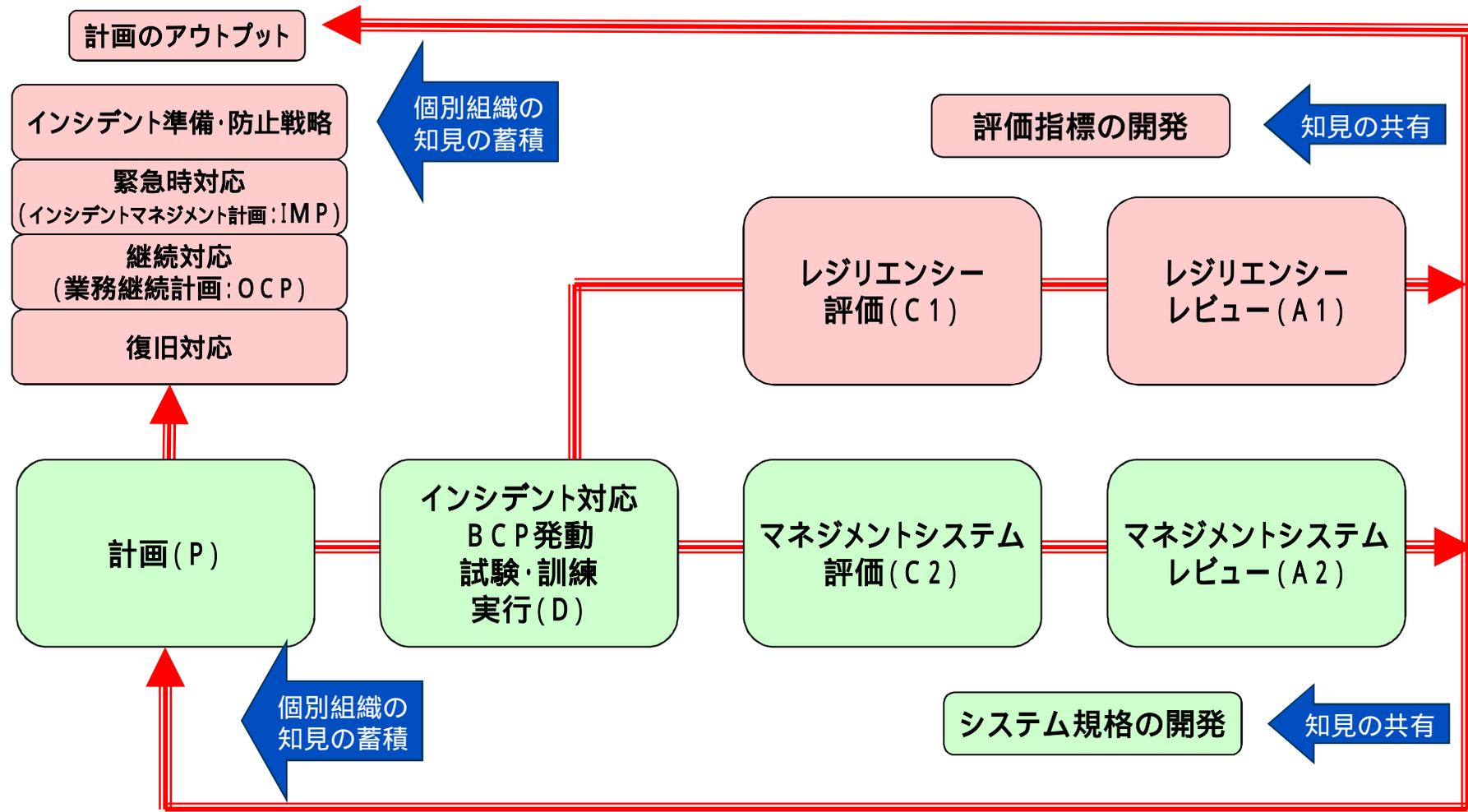
理想組織の成熟度のイメージ（例）

理想的な状態を推定

数字は規格項番



マネジメントシステムとレジリエンシー



- ・レジリエンシーの成熟度向上に直接関係する規格項目
BCPアウトプット文書(RA・BIA・BCP戦略、IMP、OCM)
- ・レジリエンシーの成熟度向上に間接的に寄与する規格項目
テスト・訓練、システム評価、マネジメントレビュー
- ・組織のレジリエンシーの知見はBCPアウトプット文書に蓄積される
- ・組織のマネジメントシステムの知見はシステム文書に蓄積される
- ・個別組織を超えた共有されるべき知見は何処に蓄積されるのか?

・レジリエンシー向上のためにアウトプット文書をどのように評価するか？ 評価基準はどのようなものがあるのか？

(例)戦略の達成度、事前準備完成度、継続手順成熟度、訓練成熟度

・組織を超えた絶対評価軸は存在するのか？

- (1)この戦略で事業継続できるのか？
- (2)この戦略でRTOは達成できるのか？
- (3)この戦略で資金ショートしないのか？
- (4)ディスラプションやサプライチェーンとの関連は…
- (5)組織の戦略目標、RTOとレジリエンシー向上の考え方は…
- (6)リスクの種類や地域特性の違い…
- (7)…

まとめ

- ・組織の目的はレジリエンスの継続的改善
- ・規格の限界も知っておく、規格とレジリエンスの調和を考慮する
- ・いくつものインシデント事例からの教訓を整理しておき、知見をいつでも応用できる状態にしておく
 選択技の多様性がレジリエンスを向上させる
- ・その知見を規格にフィードバック、関連組織と共有

組織にとって、本当に役立つ規格はどうあるべきか

一緒に考えてみませんか？

特定非営利活動法人
事業継続推進機構
国内外規格・認証制度研究会

A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)